

---

# ガンダムSEED ザフトの少年兵

カイト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガンダムSEED ザフトの少年兵

### 【Nコード】

N4924I

### 【作者名】

カイト

### 【あらすじ】

コスミッククライフ1・連合とザフトの戦争が繰り広げられてる世界。ザフトの少年兵たちの話である。

## 漆黒の世界

闇の海に光が走る。その光はどんな物も粉々にしてしまふ。その光は闇の空に消えそれと同時に赤い光を放った。光は小さな爆音になって闇に消えた。青い光いや火と言ったほうがましであろう。その光はZGMF-1017ジンのブーストから出た光だった。その光からさっきの光が飛び出した。特火重粒子砲バルルス改からでた緑の光。粒子圧縮砲、ビーム砲である。ビームは連合軍宇宙艦メネオスのエンジン部を貫く。敵艦は航行不能になった。そこに大量の銃弾とミサイルが降り注ぐ。艦橋は残っていたが戦闘などもうできないほどの損害を出していた。しかし最後のあがきであろうMA、メビウス20機を射出した。その瞬間、敵艦は闇の世界に散っていった。ジンは敵艦から出たメビウスに銃口を向ける。特火重粒子砲バルルス改から緑の火が飛び出る。メビウスはビームの前に無力であった。一瞬にしてメビウス3機を消し飛ばした。そのジンは一機単独で敵陣に飛んでいく。

「おいカイト。前に出るな。」

その通信はジンのコクピット内から出ていた。コクピット内には一人の少年がいた。少年の名はカイト・ディール。カイトは、

「わかったよ。でも先手は打った方がいいと思う。」

カイトは冷静に話した。そしてカイトはバルルス改のトリガーを引いた。また漆黒の宇宙に光の刃が駆け抜ける。メビウスを一機消し飛ばした。この砲撃によりメビウスに混乱をもたらした。

「カイトだけには手柄はやんないよ。」

さっきの通信の声とはちがう声がコクピット内にこだました。通信後、2機のジンの重突撃機銃を持って横をすり抜けた。

「援護頼むカイト。」

カイル・ハースのジンからの通信。さっきとすり抜けたジンの一機からだった。

「了解。」

その一言を返す。前の2機がメビウスに発砲を開始した。メビウスは散開はしたものの半数が撃沈された。残った10機はカイル達を囲む。カイルは左右からの砲撃に身動きがとれていない。援護射撃を開始するカイト。メビウスはカイトの砲撃をよければ1機が直撃を受けた。漆黒の世界に小さな爆音が、そして大きな爆発が起こった。それを合図にしたかのように、残ったメビウスはクルーゼ隊のナスカ級ヴェサリウスに向かう。カイトとカイルは悟った。あいつらはヴェサリウスに突貫する気だ。

「ケイト！そっちにメビウスが行った。撃ち落とせ。」  
すぐに返答がきた。

「命令するな。言われなくても打ち落してやるさ。」  
カイトのジンはメビウスの方向を向く。そこには2機のジンがいた。1機のジンはバズーカ砲キャットウスと足に三連装ミサイルバルデユスを装備していた。もう1機はバルルス改を装備していた。カイトが振り向いて数秒たった。2機のジンが砲撃し始めた。メビウスは一瞬で全機闇の空に散った。

「終わったな。」  
カイルからであった。  
「だな。」

クルーゼ隊に入隊し5人の初の戦闘は幕を下ろした。

## 漆黒の世界（後書き）

この小説を読んでくれた人に感謝します。今後も書いていきたいと  
思います。よろしくお願ひします。

## 友の死と…（前編）

カイトの乗ったジンがナスカ級に帰還した。カイトはジンから降りると一人の整備士がこっちに向かつて飛んでくる。（注意：ここは宇宙で無重力です。）コクピットにたどり着いた整備士はカイトに話しかけた。

「カイトお前の友が、いや、ラストイ・マッケンジが負傷、イカル・セイハが戦死した…」

その声は悲しみと怒りの混じった声だった。

「死んだ…イカルが…ミゲル…は？」

涙が空中に粒となって飛び散った。整備士のテイカ・ユースは俺から視線をそらし

「わからない…クルーゼ隊には帰っていないらしい。崩壊したヘリオポリスに行かないとそこまではわからない。」

それを聞いて俺はジンに乗り込みコクピットを閉め、バズーカ砲キヤットウスをジンに持たせ、まだ閉まっていないハッチから飛び出した。

「待つてるミゲル。」

ミゲルが生きてることを願いヘリオポリスに向かった。

## 友の死と…（後篇）

カイトのジンはヘリオポリスについた。粉々になったヘリオポリスはカイトに昔を思い出させた。

血のバレンタイン

あの悲劇のことを。たった一発のミサイルが何人も命を奪っていた。その戦場にカイトもいた。自分が見た赤い閃光は血にまみれていた。あの光はカイトの友人たちを奪った。

「あんなことは繰り返させやしない。」

コクピットにこだましたセリフそれは戦争を終わらしたいと願う気持ちがあふれていた。

ジんいやカイトは見つけたコクピットがあるジんを！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4924i/>

---

ガンダムSEED ザフトの少年兵

2010年10月11日17時38分発行